

変貌山の弟子たち

ルカ 9:28-36、Ⅱコリント 3:3

エレミヤ 31:33-34

遠藤一則牧師

序論：

一昨日から昨日にかけては、なかなか忙しい2日間でありました。金曜午後からは、翌日土曜日の結婚式2件分のリハーサル、会場作り、プログラム印刷等で夜7時までかかり、その後ある兄弟とバイブルスタディを夜11時まで。帰って就寝したものの、翌日朝4時からのツーリングを思い出し、出勤。8時に教会に戻り、結婚式を2つ挙げさせていただきました。考えてみれば、自分の段取りの悪さによる強行スケジュールの自業自得な無謀日程でした。自分の計画性のなさにあきれた次第です。ただ久しぶりに会ったツーリング仲間の友人は、長年病床に会ったお母様を数週間前、天国へと見送り、今は時間的に余裕ができて、とても充実しているように見えました。

I. 人の営み（立案、計画、実行）

さて翌日2件の結婚式本番ですが、一組目は20代、30代のカップル、二組目はご主人が私と同じ年の50代、奥さまは若くて20代の方でした。ご主人は私の高校の同級生、職場の同僚でもあります。彼にとっては初めての結婚式だったそうです。クリスチャンではありませんが、キリスト教式の婚礼をととても喜んでくれました。結婚式自体は私がしたのですが、会場準備、案内係、駐車場係、受付、接待等は全てその友人の仲間たちが担当し、合計200名ほどの人出でしたが、混乱もなく、後片付けに至るまでスムーズに進みました。全てボランティアサークルの方々でした。「ボランティアサークル」の底力を感じました。準備から撤収までかなり高いレベルでできていて、びっくりさせられました。

ただ少し気になったのは、全体の仕切りがその友人でしたので、午後の式の新郎が縦横無尽に駆け回るといふなかなか見られない光景が展開しておりました。彼が準備から撤収まで全体を監督していたのです。まあそれもご愛嬌ということではほほえましいものでした。

さて結婚式に限らず、私たちは常に三つのことを考えながら、生きているのではないのでしょうか。立案、計画、実行です。それぞれ得意、不得意があるとは思いますが、年齢によって役割が変わることも多いです。私は立案して、計画せず、見かねて実行してくれる皆さんに助けていただくばかりで、非常に申し訳ないと思わされることが多いです。みなさまはいかがでしょう。

II. 弟子たちの体験

さて、今日の聖書箇所には主イエスと山へ登り、祈りに行ったペテロ、ヨハネ、ヤコ

ブが祈りの最中に居眠りをし、はっと目覚めたときに、真っ白に輝く光の中、主イエスと、旧約時代の大預言者モーセ、エリヤを目撃してしまうというアンビリーバボーな体験が記録されています。もし皆様がこのようなことを、体験したらどんなリアクションをされるでしょうか。

ペテロは仰天したのでしょうか。光の中の3人のために「幕屋を3つ作る！」と宣言してしまいました。ある意味ペテロの立案です。しかし、これは熟考して言っているわけでもなく、あわてた末の失言でした。とたんに雲があらわれ、何も見えなくなり、彼らは完全にびびってしまいました。雲の中から声が聞こえます。「ここに私の愛する子、イエスがいる。その言うことを聞きなさい。」おそらく彼らには「あわててあししよう、こうしようとか決める前に、まずこちら話を聞け！」というふう聞こえたのだと思います。

まるでバラエティーショーの芸人のリアクションを見ているようです。笑ってしまいますよね。けれど、もしかしたらわれわれは同じような振る舞いを日常、主の前にしてしまっているのではないのでしょうか。皆さんはどうかわかりませんが、私は確実にしています、というより日々やらかしています。リアクション芸人の場合は意識してやっている芸ですが、私の場合はそれを越える「まじヤラカし野郎」になってしまっているのです。

後のほうを見るとペテロたちはこのときの出来事を後々まで黙っていたようです。主に口外を禁じられたということもありますが、自分たちの大失敗ということではずかしかつたのかもしれない。

Ⅲ. 主からの提案

ただこのペテロは決して罪を犯したのではないと思います。ただ考えは足りませんでした。私も同じです。こんな風に失敗するとズーンと落ち込んでしまいます。けれどもペテロはどうでしたか。決して主に見捨てられることはなく、その生涯全体を通して見れば、主に用いられたすばらしい器となりました。これは私たちの希望です。どんな的外れなことをしてしまっても、主は決して、一度信じる決意をしたあなたを見捨てないのです。

そして「イエスの言うことを聞け」と今も私たちにやさしく語っておられるのではないのでしょうか。では何を主は聞くようにと提案しておられるのでしょうか。このことについて自分で考えるうちに二つのことに思い当たりました。一つ目は石の板に書かれていることを読むことです。旧約聖書の中に、律法も含め、主は私たちにすばらしい言葉をたくさん残してくださいました。たとえば十戒です。律法の象徴として、怖いと思う人もいるかもしれませんが。でも十戒はよくよく見てみれば、わたしたちの実際生活のガイドラインとして至極、的を得たものです。守らなければ罰せられる命令としてではなく、これによって私たちが権力者や詐欺師、高圧的な人物から守られる、

主の愛の贈り物として呼んでみるのです。これは「主の言うことを聞け」といわれたときに大いにヒントになるものではないでしょうか。

IV. 心の板を読む（Ⅱコリント）

二つ目は心の板に書かれることを読むことです。新約聖書の中のイエスの教えやパウロの教えなどは文字通り読めば、旧約よりぐっと厳しく人間の内面に関わってくる命令ばかりです。しかし、これも私たちの罪深さを知るガイドラインと考えれば、すばらしい恵みです。また、その言葉を読み、思いめぐらし、祈るときには、主ご自身が
いかにその言葉を実行して下さったかという恵みがわかってきます。直接書かれていなくとも、御言葉の背後にある主の心が読めるのです。これはまさに聖霊の働きです。私たちが、心の板に書かれていることを読む、という実践を可能にしてくれるのです。これも主の尊いご提案ですね。

結論：エレミヤより

石の板、心の板、両方に書かれていることの土台には何があるのでしょうか。今日のエレミヤのことばです。すなわち、主は「私たちの罪を赦し、咎を二度と思い出さない」という奇跡的な約束です。天地創造はすばらしい。奇跡やいやしも役に立つ。しかし、何より、罪の赦しと解放を実現された主の愛にはどんなに感謝してもしきれません。今朝も再び主に感謝しましょう。